

# 第6次上尾市総合計画の策定に向けた 市民会議提言書（案）

本文中の赤字箇所は、前回書面開催において、ご意見等あった  
内容を追記・修正等行ったものとなります。

令和2年7月

あげお未来創造市民会議

## 目 次

はじめに.....	3
★ 市民会議とは .....	3
★ 協議を進める上でのポイント .....	3
★ 私たちの想い .....	4
★ 提言内容の構成 .....	5
★ 未来の上尾市のまちづくり .....	5
1. 私たちが思い描く理想の上尾の姿 .....	6
★ 未来の上尾市の望ましい姿 .....	6
2. 基本理念への提言 .....	7
3. 将来都市像への提言 .....	9
4. 分野別施策に対する提言 .....	11
【健康・医療】 .....	12
【協働・コミュニティ】 .....	15
【行財政運営】 .....	18
【防災・防犯・交通安全】 .....	21
【福祉】 .....	24
【都市基盤・公共交通・環境・緑地・公園】 .....	26
【子育て】 .....	30
【文化・スポーツ】 .....	32
【教育】 .....	34
【産業】 .....	37
5. 参考資料 .....	40
★ あげお未来創造市民会議委員名簿 .....	40
★ あげお未来創造市民会議要綱 .....	42
★ あげお未来創造市民会議の取り組み状況について .....	43

## はじめに

### ★ 市民会議とは

私たち、「あげお未来創造市民会議」（以降、「市民会議」と呼びます）は、市が予定する「第6次上尾市総合計画」の策定にあたり、様々な視点から今後の上尾市のまちづくりの方向性等について協議し、総合計画に反映させることを目的とした会議です。

市民の意見や要望等を総合計画に反映させるため、市内の各種団体に属する者、市内の各分野において豊富な活動経験を有する者、公募により選考された者の計30名から構成されているほか、市が総合計画策定に向けて設置した、庁内の若手職員でつくるプロジェクトチームのメンバーもファシリテーターなどとして参加しており、会議自体が一つの「協働の場」となっているのが特徴です。

### ★ 協議を進める上でのポイント

「市民会議」は、市民と行政が一堂に会して話し合う会議であり、参加者の立場や考え方は多彩です。協議を進める上では、委員それぞれが自身の立場から積極的に意見を述べるだけでなく、お互いの考えを理解し、意見を尊重し合いながら、議論を進めました。会議ごとに司会者、発表者といった役割を持ち回りで担うようにしたことも特徴です。

また、今後の上尾市のまちづくりの方向性等を提言するに当たり、10年後を見据えた大局的な視点を持ちながら、議論を進めるよう心掛けました。

## ★ 私たちの想い

「市民会議」では、固定的なグループを編成することはせず、協議テーマに応じて、各委員の専門性を踏まえたグループ構成を行ってきたほか、各回の最後にグループ発表の時間や意見交換の時間を設けるようにしました。この結果、「市民会議」の全体を通じて、一人ひとりの委員が多くの異なる意見に触れることとなりましたが、立場や考え方は違えども、「私たちの暮らす上尾市をもっとよいまちにしたい」という強い想いは共通していることも改めて分かりました。

上尾市は、全国的に人口減少・少子高齢化が進む中でも、人口の増加が維持されている地域ですが、今後は人口が減り始め、ますます高齢化が進行していくことが予想されています。また、市の財政状況が厳しくなっていくことも見込まれています。しかし、こうした困難な時代状況にあればこそ、まちの活力を維持・向上させ、将来にわたって市民の笑顔が絶えない上尾市を実現していきたい。そのためには、もっと地域のつながりを育みたい、上尾市ならではの強みを磨かねばならない、従来の縦割り意識に囚われず、分野横断的な取組を進めるべきだ。そんないくつもの共通の想いが、「市民会議」の中で浮かび上がってきました。

## ★ 提言内容の構成

1. 私たちが思い描く理想の上尾市の姿、を示した上で、2. 基本理念、3. 将来都市像、4. 分野別の施策について提言しています。分野別の施策については、次のように整理しています。

- ①その分野における理想の状態
- ②理想の状態を実現するために必要な取組
- ③必要な取組を実行していくに当たっての、市民と行政の役割分担について

## ★ 未来の上尾市のまちづくり

今回の「市民会議」は、「上尾市をもっと良くしたい」という想いであふれていました。

社会経済情勢が厳しさを増す中で、上尾市の未来を一人ひとりが、自分のこととして引き受け、「オール上尾市」でまちづくりに取り組む体制づくりは、今後ますます重要になるものと思われます。市民と行政の双方が、それぞれの役割に応じて上尾市をもっと住みよいまちにしていける「協働」の取組をますます深化させていくことが求められます。

私たちの提言が、「第6次上尾市総合計画」の策定に活かされ、市民と行政が一丸となって上尾市の未来に向けたまちづくりを進めていくことを願っております。

あげお未来創造市民会議 委員一同

## 1. 私たちが思い描く理想の上尾の姿

### ★ 未来の上尾市の望ましい姿

市民会議では、議論の端緒に当たって、まず、「未来の上尾市の望ましい姿」を思い描くこととしました。議論の結果、次の4つの「理想像」が浮かんできました。

#### 人口が維持され、コミュニティの力も保たれている状態

全国的に人口減少が進む中でも、市内の人口規模が保たれる中で、「地域内で人のつながり」が維持され、「地域の見守り体制」や「防災力」が機能して、「住民がいきいきとしている」状態が理想です。

#### 誰もが健康でいきいきと暮らせる状態

ウォーキングなど健康づくりに向けた活動が活発に行われるほか、子育て世代の女性、高齢者のほか、障害者や外国人など、社会的に弱い立場に置かれがちな人も含めてみんなが暮らしやすく、「誰一人取り残さない」まちの実現が理想です。

#### シティセールスが成果を上げ、市民活動コミュニティが活発な状態

市民の自分のまちへの関心・愛着を基盤にシティセールスが成功し、人口増が達成されるとともに、自治会活動への若年世代参加など、市民活動も活発化している状態が理想です。

#### 子育てしやすいまちであり、教育が特化し充実している状態

子育て世代への充実した支援を通じ、教育環境の底上げが図られつつ、子どもの個性の伸長・多様性を意識した画一的でない教育が行われている状態が理想です。

## 2. 基本理念への提言

市民会議では、私たちが思い描いた10年後の「上尾市の望ましい姿」を達成するための必要な取り組みを検討し、基本理念を話し合いました。基本理念は、まちづくりに取り組む上で、基本となる視点や姿勢になります。各グループで討議した結果、10年間共通のまちづくりの基本理念として、以下のような基本理念を考えました。

基本理念（案）： 10年間共通のまちづくりの基本理念

グループ	基本理念
A	●創造    ●協働    ●共生    ●発信    ●受援
B	●人財育成…教育    ●自助、共助、公助    ●フラットシティ ●安心安全な生活を約束    ●国際化に対応するオープンシティ ●互いを知り共生共栄する    ●効率のよい持続可能な行政運営
C	●緑豊かな安心を感じられるまちづくり ●市民の目で次代を見据える上尾ならではの異次元のまちづくり ●市民と行政が一体となって取り組むまちづくり
D	●安心して過ごせる    ●主体性の発信 ●スポーツ、文化の充実、市民活動の発展 ●公助と共助のバランスが良く、人とまちがつながる ●多文化共生    ●自立して挑戦できる

# 市民会議における『基本理念』の検討内容

## 取り組み

### 望ましい状態：人口が維持され、コミュニティが保たれている

- 「上尾ならではのもの」や「おしゃれな街」、文化的施設のPR/安全・安心のPR/子育て支援のPR/保育料無償化など他市との差別化/地場産品を使った給食の無償化/子どもを対象としたイベント開催/若者に魅力あるまちづくり
- 医療の充実/高齢者に優しいまちづくり/障害のある方に優しいまちづくり/バリアフリー
- 市内の雇用創出 ●緑 ●男性の地域参加 ●自治会活動の民主化 ●場所の充実

### 望ましい状態：健康で誰もが生き生きと暮らせるまち

- 社会的弱者への理解促進/公共施設を障害者にも使いやすいとする/SDGsの取り組み
- 若い頃から社会参画しやすい仕組みづくり/サークル・団体活動のきっかけづくり/空き施設の活用
- ボランティア体験をしやすくする/外国人と交流できる機会を増やす/通訳・相談窓口を増やす/外国人のための防災・医療の対策/外国人の市民活動を促す
- 健診受診率 100%/健診をより受けやすくする/大きな声を出す/国際スポーツ大会開催/サークル活動/活動/体協加盟団体の活性化/みんなでウォーキング/サイクリング・ウォーキングロード整備
- 子育て支援の場を増やす ●先生の働き方改革 ●身近な施設を活用して子育て支援

### 望ましい状態：シティセールスが成果を上げ、市民活動コミュニティが活発

- 安全・安心をPRする/子育て世代に対し「災害に強いまち」を強調する/災害時の地域間連携/災害時に保育所で子どもを預かる ●市内スポーツ施設への来訪者に上尾の魅力をPR ●操業支援/産学協働のビジネスコミュニティをつくる/企業負担の軽減 ●あげぼたの活用/市のコンシェルジュを設置/斬新なイベントの開催
- 市民のニーズを吸い上げやすくする仕組みづくり

### 望ましい状態：子育てしやすいまちであり、教育が特化し充実している

- 基礎学力の充実に向け、学校ごとに特化した科目/市が学習支援教室を設ける/タブレット等の教材の充実/eラーニングについて周知/ALT 教育のアピール ●財政的支援 ●児童の健康づくり支援
- 学校でできない教育を行う/子ども食堂等フォロワー体制の充実/「原市寺子屋」「おやじの会」「サマースクール」の取り組み参照/集会所活用し、自治会の協力を得る ●子どもが生まれた時や入学時などに子育て支援団体について親に周知する/上尾版「ベバマカード」を作り、子育てに関して相談できる団体や機関につながる窓口を一本化
- 地域全体で子育て世代を支える空気を醸成/地域の人に子育てに関心を持ってもらう

Aグループ

Bグループ

Cグループ

Dグループ

## 基本理念の要素

- 独創性 ●文化的 ●安全・安心
- 子育てのしやすさ ●移住・定住促進
- 持続可能性 ●多様性 ●協働
- 共生/一人ひとりを大切にしたまちづくり
- コミュニティの強化/つながり ●支え合い/助け合い

- 共生/交流 ●自立 ●フラット（土地も人も）
- 多様性/包摂性/寛容/個性の尊重
- 協働/まちづくりへの参画/自治
- 健康/健康/いのち輝く
- 個性の尊重/自分らしく生きられるまちづくり
- 共生（共栄） ●教育（学校・生涯） ●互いを知る
- インフラ整備 ●安心安全 ●効率化
- 持続可能（モノも人も） ●約束/助け合う/扶助かつ自立

- 独創/創造/上尾ならではのまちづくり ●安心を感じられるまちづくり
- 移住定住/持続可能なまちづくり/人を呼びこむ、惹きつける
- 魅力発信/魅力向上 ●地域の活力
- 市民自治/市民参画/協働/市民が主役のまちづくり
- 市民目線を持った行政マン ●職員の意識改革

- 独創/上尾ならではの教育 ●一人ひとりのニーズに応じたきめ細かな対応/個性の尊重 ●誰一人取り残さない（SDGsの理念）/平等/公正 ●地域全体で子育て ●互助/支え合い
- 未来を見据えたまちづくり/人づくり/持続可能性
- 個人の尊重（誰でも） ●上尾ならではの教育
- 自立 ●共助、公助 ●市民活動 ●継続性
- やり直せる/安心/セーフティネット/挑戦
- つながる ●スポーツ・文化の充実

## 基本理念

- 創造 ●協働
- 共生 ●発信
- 支援

- 人財育成…教育 ●自助、共助、公助
- フラットシティ
- 安心安全な生活を約束
- 国際化に対応するオープンシティ
- 互いを知り共生共栄する
- 効率のよい持続可能な行政運営

- 緑豊かな安心を感じられるまちづくり
- 市民の目で次代を見据える上尾ならではの異次元のまちづくり
- 市民と行政が一体となって取り組むまちづくり

- 安心して過ごせる ●主体性の発信
- スポーツ、文化の充実、市民活動の発展
- 公助と共助のバランスが良く、人とまちがつながる ●多文化共生
- 自立して挑戦できる



### 3. 将来都市像への提言

市民会議では、私たちが思い描いた10年後の「上尾市の望ましい姿」とはどのような状態であるかを各グループで検討し、それを基に、以下のような将来都市像を考えました。

将来都市像（案）： 10 年後に目指す将来の都市の姿

グループ	将来都市像（案）
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>●共に生きる 安心安全なまち あげお</li> <li>●緑と安全 活気あふれるまち あげお</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>●住みたい 住み続けたい ちょうど良いかげん あげお</li> <li>●東日本の人材交流拠点都市 出会えるまち あげお</li> <li>●めざせ中核市 あげお</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境共生都市</li> <li>●市民のために（本気で）なんでもやる都市 あげお</li> <li>●森羅万象 われらが エナジー（or 誇り） あげお The 市民力爆発的推進都市</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>●あそびがいっぱい 笑顔あふれる街 あげお</li> </ul>

# 市民会議における『将来都市像』の検討内容

## 状態

### Aグループ 望ましい状態：人口が維持され、コミュニティが保たれている

- 住民が生き生きとしている ●地域内での人のつながり ●地域の見守り体制の強化
- 防災力の向上 ●共生社会（外国人などを含めた多様性）の実現

### Bグループ 望ましい状態：健康で誰もが生き生きと暮らせるまち

- ノーマライゼーション ●障害者との共生 ●外国人との共生
- 高齢者との共生／高齢者の社会参加 ●多くの人が社会で活躍
- 介護者のメンタル良好／心も健康 ●スポーツする人が増える
- 労働人口増／就業定着率増加 ●医療費減
- 税収増 ●働く女性も子育てしやすい

### Cグループ 望ましい状態：シティセーラースが成果を上げ、市民活動コミュニティが活発

- 人口増・観光客増 ●企業が増える、企業活動活発化
- 税収増 ●親子での活動増（施設も増） ●子育て世代が流入
- 市民が自分のまちをよく知っている ●市民が自分のまちに関心がある
- 自治会に若い人が入ってくる ●若い世代の団体加入で地域活性化
- コミュニケーション増加

### Dグループ 望ましい状態：子育てしやすいまちであり、教育が特化し充実している

- 多様性を認める教育 ●子どもの個性・感受性が豊か
- 福祉政策が充実したまち ●子どもが平等に基礎学力を伸ばせる環境がある

## 将来都市像の要素

- 活気 ●にぎわい ●人と人とのつながり
- 安心安全 ●共生 ●多様性

- 共生／平等 ●健康 ●個性 ●人権尊重
- いいかげん（良い意味） ●活力 ●躍動 ●持続可能性
- だれもがいきいき暮らせる ●みんなに（が）優しい
- 十里あげお ●安全都市 ●中途半端 ●めざせ中核市
- 住みたい（住んでみたい）・住み続けたい
- ウェルカム／出会える／開かれたまち ●フラットシティ

- 活気 ●若さ ●経済活力
- 郷土への関心 ●ジビックブライド
- まちへの誇り ●協働 ●自然環境
- 市民活動 ●横串 ●多様性を受け入れる
- 市民の力がダイレクトに市政に伝わる

- 多様性／個性／寛容 ●子育てのしやすさ ●人づくり／未来への責任／持続可能性
- 遊びを大事にする ●赤ちゃんと大事にされる ●子育て世代の働きやすさ
- 子育て世代が笑顔で暮らせる ●子どもが生き生きできる ●平等
- 当たり前のことができる（相談・支援体制） ●雇用促進／働き口（市内）の増加
- 「～するべき」から解放（例：お母さんは〇〇すべき） ●特化した教育
- 人材育成 ●定住 ●住みたくくなる・住み続けたくなる

## 将来都市像

- 共に生きる 安心安全なまち あげお
- 緑と安全 活気あふれるまち あげお

- 住みたい 住み続けたい ちようど良いかげん あげお
- 東日本の人材交流拠点都市 出会えるまち あげお
- めざせ中核市 あげお

- 環境共生都市
- 市民のために（本気で）なんでもやる都市 あげお
- 森羅万象 われらが エナジー（or 誇り） あげお The 市民力爆発的推進都市

- あそびがいっぱい 笑顔あふれる街 あげお

## 4. 分野別施策に対する提言

市民会議では、10のテーマ分類に基づき、分野別の施策について話し合いました。テーマごとにグループを編成し、次の通り整理しています。

- ①その分野における理想の状態
- ②理想の状態を実現するために必要な取組
- ③必要な取組を実行していくに当たっての、市民と行政の役割分担について

なお、各グループがそれぞれ以下のようなテーマについて協議しました。

### 協議テーマ1

グループ	テーマ分類	小項目
Aグループ	健康・医療	健康
Bグループ	協働・コミュニティ	市民活動・コミュニティ支援、交流、情報共有、人権・男女共同参画・平和
Cグループ	行財政運営	行政運営、財政運営、公共施設
Dグループ	防災・防犯・交通安全	交通安全、防災・危機管理、消防、防犯、消費生活
Eグループ	福祉	生活福祉、高齢者福祉、障害者福祉

### 協議テーマ2

グループ	テーマ分類	小項目
Fグループ	都市基盤・公共交通・環境・緑地・公園	上水道・下水道、河川、土地利用、住環境、交通、道路、環境保全、廃棄物・リサイクル、生活環境、みどり
Gグループ	子育て	子育て、青少年
Hグループ	文化・スポーツ	文化・芸術、文化財、生涯学習、スポーツ・レクリエーション
Iグループ	教育	教育環境、教育活動
Jグループ	産業	農業、商業、工業、観光、勤労者・就労支援

## 【健康・医療】

### ①理想の状態

### 「健康寿命が長い」「いるだけで健康になれるまち」

この目標を達成するために、「人の健康」「地域の健康」「まちの健康」の3つのカテゴリーに分類しました。

#### 人の健康

一人ひとりが「健康づくりに関心を持っている」「運動習慣を身に付けている」「病気の予防ができて」「介護予防ができて」「ストレス解消ができて」などにより、自分の健康を自分で守ることができている状態が理想です。

#### 地域の健康

「地域住民のつながりが強く」「市民の活発な社会参加」が行われ、「市民の交流・コミュニケーションが取れる機会・場がある」状態や、「健康経営」が広く実践されている状態が理想です。

#### まちの健康

「健康に関する相談がしやすい」「健康診断受診率が高い」「かかりつけ医による健康管理ができて」「病院の情報にアクセスしやすい」「医療を受けやすい環境が整っている」「公衆衛生が充実」、このようなまちが形成されていることが理想です。

### ②必要な取組み

上に掲げた理想の状態を実現するために、次のような取組みを提案します。

#### 〈人の健康〉

##### 規則正しい生活

- 早寝早起き朝ごはんの徹底（朝食をしっかり摂る、睡眠時間の確保）
- 食育の実践（大人への教育、家庭での習慣付け、口腔衛生、咀嚼・食事の取り方を教える）

##### フレイル予防

- 本人が気付けるきっかけや情報提供（セルフチェックの方法、家庭でできる運動を教える）
- 健康づくりを促す取組みへの工夫（健康体操にポイント付与など、参加者に特典を与える）
- 市民講座や健康体操などの健康づくり活動を推進することで、高齢者の引きこもりや認知症の予防改善

## 生活習慣病予防

- 世代別・年代別の健康課題に対応した健康づくり（ライフステージ別の対策、若い頃からの生活習慣病対策）
- 高血圧の原因である塩分の摂り過ぎを改善するための「アップピー減塩運動」を計画的に取り組む

### 一次予防

- 健康教育、生活環境の改善、予防接種、災害・事故防止、禁煙・節酒、食生活の改善などの取り組みを日頃から実践

### 二次予防

- 病気になっても症状が進展したり、また死に至ることがないように早期発見・早期治療の心掛け

### 三次予防

- 病気や障害の進行防止、病気の再発防止、機能回復、機能維持のためのリハビリテーションなど病気にかかった後の対策

## 心の健康

- 引きこもり対策（生きがいを与える）
- ストレス予防に関する教育機会の充実
- インターネット依存症予防
- スマートフォンやインターネットの長時間の利用防止のため、チェックリスト作成・提供
- 働く世代の健康管理やメンタルヘルス対策

### 〈地域の健康〉

## 社会参加を促す

- 生きがいを見つけるために、サークル活動やボランティア活動などへの参加
- 高齢者の引きこもりや認知症の予防改善のため、市民講座や健康体操などの健康づくり活動を推進
- 人が外に出ていきたくなる機会の提供（無料の〇〇など魅力的なプランを企画、炊き出し・試食会、子どもも参加・多世代交流イベントの開催）
- ぶらぶら歩きができる場所をつくる（車が入ってこられない歩行者専用のエリア、興味を持って入ってみたいとなる施設）
- 男女共同参画の推進（男性の家事参加、男女とも生涯現役）
- 一日一善をする（挨拶・声かけ・ゴミを一つ拾うなど、毎日何かよいことをする）
- 知識や趣味を生かす「まなびすと」講座の推進・拡大
- 60歳以上の優良健康市民を対象とする「健康顕彰制度」をつくる

## 健康経営を推進

- 自治体、商工会（企業）が健康保険等を通じて連携

## 〈まちの健康〉

### 情報提供・啓発

- 知識を提供する体制づくり（意識を変え、実行に移す啓蒙活動、セミナーのネット配信、情報を広める工夫、学習漫画）
- 市民への正しい健康情報の提供（予防に関する知識を補完するために市の広報誌や外部講師等による健康講座を継続的に開催する。）

### 健（検）診受診率向上のための取組み

- 受診率アップのための広報活動（自分の健康状態に危機感を持ってもらう）、**動機づけの工夫（受診者へのポイント付与等）**

### 健康づくりの担い手を育成

- サポーターを育成（サポーターが活動する場所をつくる、相談・対話）

### 安心して医療を受けられる体制整備

- 病院マップの作成
- **開業医と専門医、病院厳密に分れた医療体制**

### ストレス解消を図る

- 相談窓口の充実（SNS の活用、学校での相談）

### その他

- 社会活動（市民交流）への参加
- アップー「一日一善運動」（なにかよい行いをすることで、気分の向上を図る市民活動を推奨）

## ③市民と行政の役割分担

上に掲げた取組みを実行していくに当たり、私たちが進めること、行政に期待することについて、次のとおり提案します。

### 〈私たちが進めること〉

規則正しい生活を送る、生活習慣病の予防、**健（検）診を積極的に受診する**など、自分自身の健康管理に取組みつつ、**社会参加及び健康づくりに関する担い手**となるなど、積極的な地域参加に努めることが必要です。

### 〈行政に期待すること〉

体操の参加**や健（検）診の受診でポイントが貯まる制度**や健康に関する市独自の認証マーク作成など、**市民の健康づくりを動機づける仕組みの創出**ほか、**地域活動の担い手育成**や、健康づくりに関する積極的な情報発信が**求められます**。

## 【協働・コミュニティ】

### ①理想の状態 「交流・活動の場づくりができています」

「いつでも活動できる場所がある、地域の活動に誰もが参加できる」

この目標を達成するために、「市民活動・コミュニティ支援」「交流」「情報共有」「人権・男女共同参画・平和」の4つのカテゴリーに分類しました。

#### 市民活動・コミュニティ支援

各地域単位など、歩いていける距離に市民が集える場を作り、誰もが気軽に地域活動に参加でき交流を深め、地域の支え合いを生み出している状態が理想です。

#### 交流

国や世代を超えた「交流」が日常的にあることで、「人権・平和」といった問題をも意識できることになり、誰にとってもやさしいまちである状態が理想です。

#### 情報共有

地域の支え合いによって、災害時の「情報共有」や市民団体間の連携など個人だけではなく集団による支え合いが生まれ、いつでも安心できる状態が理想です。

#### 人権・男女共同参画・平和

協働を通して誰もがまちづくりに参画でき、すべての人が平等で平和なまちである状態が理想です。

### ②必要な取組み

上に掲げた理想の状態を実現するために、次のような取組みを提案します。

#### 〈市民活動・コミュニティ支援〉

市民が気軽に集まれる場を設け、お互いを知り合うことを促す

- 各地区に、誰でも集えるような憩いの場を設ける（歩いて行ける身近な場所に多目的に使える場の創出）
- 各地域に集いの場づくり（緩い集まり・サロンの場への支援、空き家有効活用など）
- 市民団体のつなぎ役を行政が担う（連携のサポート）
- 地域デビュー支援事業の回数増（1回／年⇒2～3回／年）

#### 〈交流〉

市民が気軽に集まれる場を設け、お互いを知り合うことを促す

- 引きこもりの人たち向けの就労場所を確保

- 世代や立場を超えて、地域や学校でお互いを知る（伝統文化継承事業、異文化の受け入れ、保育施設と高齢者施設の交流）
- 地域のリーダーの育成、担い手の育成

## 〈情報共有〉

### 全体

- 情報の信頼性の向上
- 共通言語を「やさしい日本語」にする（誰にでもわかり易い情報の発信）
- 外国人が気軽に相談できる行政サービス窓口の充実（文書を分かりやすく、相談場所の明示）
- 伝承文化センターの設立

### 災害

- 各家庭への無線ラジオの設置
- 災害時専用の情報センターの設置
- 駅や大型スーパーへの情報発信ディスプレイの設置
- 高齢単身世帯に情報発信のディスプレイを設置
- 広報以外の媒体による情報発信の強化
- テレビ埼玉で上尾の番組を放映
- 防災無線の改善（やさしい日本語や多言語による情報発信等）
- 防災マップの精度向上

## 〈人権・男女共同参画・平和〉

### 人権・平和

- 啓発機会やツールの充実（市民に対する啓発の充実、講演・講座等の定例会の実施、悩んでいる人の電話相談）
- （国・人への）思い込みを捨てる（偏見に気付くこと、あいまいな言葉について考える、相手のことを知る、転入外国人の子どもの学校へのスピーディーな受け入れ）
- 人権教育、平和教育の充実
- 性的少数者への正しい理解の推進（学校教育の充実、同性パートナーシップ証明制度の導入）
- 学校における情報モラル教育の充実（学校でスマホや SNS の使い方を教える）
- 市役所における女性職員登用の推進



### ③市民と行政の役割分担

上に掲げた取組みを実行していくに当たり、私たちが進めること、行政に期待することについて、次のとおり提案します。

#### 〈私たちが進めること〉

市民主体でイベント・活動を行うために、リーダー養成講座への参加や積極的な意見交換をする場への参加など、教育・人権等の活動をはじめ様々な分野で情報交換・共有に努めることが必要です。

#### 〈行政に期待すること〉

交流活動場所の提供や担い手の育成など市民活動を支援するための仕組みづくりに努めるとともに、協働・コミュニティに関する情報のほか災害等に関する情報などの提供・発信の強化が求められます。また、人権等に対する理解のさらなる浸透も求められます。

## 【行財政運営】

### ①理想の状態

### 市民・民間等との協働の推進

この目標を達成するために、「行政運営」「財政運営」「公共施設」の3つのカテゴリーに分類しました。

#### 行政運営

自助・共助・公助の分担を明確にし、着実な方策を市民との協働により効率的・効果的に事業を進め、「行政のスリム化」を図る体制が整っている状態が理想です。

#### 財政運営

事業のスクラップ&ビルドにより、少ない費用で効果的な事業の執行を行うとともに、歳入を増やすため、地元の雇用を増やし、人口が増えている状態が理想です。

#### 公共施設

施設の安全性を確保するとともに、障害者や高齢者、子どもなど多様なニーズに応えられる場として機能している状態が理想です。

### ②必要な取り組み

上に掲げた理想の状態を実現するために、次のような取り組みを提案します。

#### 〈行政運営〉

##### 行政運営のスリム化

- 外部の民間人材の活用
- ICT を活用して行政運営を分析
- 行政サービスのワンストップ化
- 民間事業・NPO 法人との連携
- 業務の効率化のための、事務事業の見直しを図る
- 行政が団体同士のつなぎ役を担う
- 事務事業の分担化（自助・共助・公助）の明確化
- 市民参画による区分を明確にした施策化の推進

##### 協働

- 地域でできるものは、地域で取り組む
- 公助、共助を実行できる体制づくり
- 質の高いボランティア（サービス提供者となるボランティアの育成重要、ボランティアの意識啓発）
- 司令塔（リーダー）を置き、官民連携を進める

## 透明化

- 市民への説明を徹底（タウンミーティングの積極的な実施、業務過程の見える化）

## 多様なニーズへの対応

- 多様化するニーズに柔軟に対応する新たな施策を展開する

## 〈財政運営〉

### 財政運営のスリム化

- PFI 等民間の財力も活用した施策
- 予防医療（がん検診等）を将来的な扶助費の負担減につなげる
- ボランティア団体の活用
- 予算や補助金を必要な場に配分し、必要に応じて見直せるルール作りを行う
- 事務事業評価（手法の検討、外部組織による評価、客観的な評価、既得権益の撤廃、費用対効果の見極め、スクラップ＆ビルド）
- 補助金の見直し（使う側の意識も大切）

### 財政基盤の強化

- 地域産業への行政からの後押し（会社立地条件の改善）
- 活力ある企業を誘致し、地域の活性化を図り財政基盤を整える。（工業特区をつくり、企業を集積する）
- 人口減を抑制する施策を通じて、市民税収を安定させる
- 使用料などを見直し、収入増を図る

## 〈公共施設〉

### 効率的な施設整備

- 市民サービスの低下を招かないような効率的な施設の設置
- 土地の有効活用、公園整備
- 公共施設の統廃合
- 公共施設の複合化、多機能化
- 小学校を別の用途で使用するなど、既存施設の転用（施設の再利用）

### 戦略的な施設整備

- 子育て世代の移住定住を促進するための保育所などの優先的整備
- 若い世代が子育てしやすい施設など、公共施設の戦略的な施設整備

### ③市民と行政の役割分担

上に掲げた取組みを実行していくに当たり、私たちが進めること、行政に期待することについて、次のとおり提案します。

#### 〈私たちが進めること〉

自治会や地域団体、ボランティア活動を通して、リサイクル活動やイベントの企画・参画など自分たちでできることは自分で実施することが必要です。

#### 〈行政に期待すること〉

財政基盤の強化のため、工業・農業特区の設置や、ボランティアや民間活力の活用など行政と市民の協働を探りつつ、行政のスリム化に努めることが求められます。

## 【防災・防犯・交通安全】

### ①理想の状態

### 安心・安全な暮らしを実現できるまち

「交通安全」「防災・危機管理」「消防」「防犯」「消費生活」の5つのカテゴリーに分類しました。

#### 交通安全

事故に遭わないため、**地域の見守り体制が強化され、一人ひとりの交通マナーの意識が向上している状態が理想です。**

#### 防災・危機管理／防犯

**災害に備えておくこと、犯罪に巻き込まれないことなど、平常時から意識して備えている状態が理想です。**

#### 消防

消防施設見学やAED・救命講習への参加など、**一人ひとりの消防や救急に対する意識が向上している状態が理想です。**

#### 消費生活

消費者問題を考える場を創り出し、**消費者被害の防止に地域ごとに取り組んでいる状態、また、地産地消を促進しつつ、リサイクル意識・食べ残しの軽減などについて市民の関心が深められている状態が理想です。**

理想の状態に近づくためには、各カテゴリーにおいて、地域ぐるみで横断的に取り組む必要があるため、各種問題について市民意識の醸成に努め、市民が積極的に行動するまちをつくるのが大切です。

### ②必要な取組み

上に掲げた理想の状態を実現するために、次のような取組みを提案します。

#### 〈交通安全〉

##### ソフト面

- 児童用に自転車ヘルメット着用の強化
- 自転車の乗り方改善（免許制、子ども・高齢者に対する交通安全教室）
- 免許返納者に対する市内循環バスの無料化
- 青パトのスリム化・効率化      ➤ 見守り隊の組織化（市全体、補助金を検討）
- 学校との連携により事故を抑止する
- 自治会、学校などと連携した地域の危険箇所の定期的な把握

## ハード面

- スクランブル交差点の設置検討（歩車分離整備工事）
- 街灯の増加、維持管理

## 〈防災・危機管理〉

### ソフト面

- ハザードマップの周知
- 地区防災計画の策定（学校と地域が連携して防災計画を立てる）
- 事前復興計画の策定
- 防災教育（体験学習、自治会や学校と連携）
- 防災訓練（**初期消火の訓練、一次救命措置の訓練**、母子対象の訓練、避難所までのまち歩き、避難所設営訓練）
- **市民と行政とのスムーズな情報共有**（防災情報の共有、SNS 等活用によりリアルタイムで情報発信する職員を配置）
- **市長によるの情報発信**
- 有事の際の民間との協力（ショッピングモールなどと協定を結び避難所として活用）
- 市と市民の連携（有事の避難所開設を想定した市職員と自主防災組織の連携明確化、市と防災士の連絡再確認）
- 備蓄倉庫数の公開

### ハード面

- 防災用スピーカーの強化
- 防犯カメラの設置
- 避難道路の整備

## 〈消防〉

- 消防団との連携
- AED 講習、救命講習の実施
- 地域交流の推進

## 〈防犯〉

### ソフト面

- 防犯パトロールの充実
- 防犯メールの認知度を上げる

### ハード面

- 街路灯の設置
- 空き家を利用する

## 〈消費生活〉

- **消費者被害の防止（消費者団体と協働するお届けミニ講座）**
- リサイクルシステムの工夫（子ども服などのリサイクル、制服・バッグ・ジャージ等のリサイクル、リサイクル資材の商品化）
- 食品ロスの削減（食品ロスのシンクタンク）
- SDGs への取組み（プラスチックごみの削減、ごみの減量）
- 地産地消の推進（野菜などの直売所設置）

- 子ども食堂への支援
- あげハルの広報活動
- 困った時の窓口明確化（高齢者の買い物サポート、処分事業者の紹介）

### ③市民と行政の役割分担

上に掲げた取組みを実行していくに当たり、私たちが進めること、行政に期待することについて、次のとおり提案します。

#### 〈私たちが進めること〉

日頃から近隣住民とコミュニケーションを取り、個人でも有事に備えた行動が必要であり、交通安全や防災・防犯に関する情報共有や市民参画を通して、分野横断的に市民意識の醸成に努めることが必要です。

また、「消費生活」でも「防災・防犯」との分野横断的連携が求められますが、特に高齢者の消費者被害防止については「福祉」との連携を意識して取組みます。

#### 〈行政に期待すること〉

自転車道の整備や防犯カメラの設置など交通安全・防犯に関するハード整備や、地域防災計画の指導や空き家バンクの活用などソフト面の仕組みづくりが求められるほか、地域のリサイクル情報の提供や避難所の運営など、地域安全に関する各種取組みのPRを行い、市民との協働・連携による安全対策が求められます。

## 【福祉】

### ①理想の状態

障害の有無や年齢などに関わりなく、  
誰もが参加できるコミュニティがある状態

この目標を達成するために、「生活福祉」「高齢者福祉」「障害者福祉」の分野を横断して、「みんなにとって良いこと」を1人でも多くの人が考えている社会を実現する必要があります。

#### 生活福祉

「ひとり親世帯や貧困について、地域の人たちの理解がある状態」や「生活保護に至る前にセーフティーネットが働く状態」など、市民意識の醸成や支援の仕組みが整っている状態が理想です。

#### 高齢者福祉

「安心して暮らせる」「生きがいを持てる」など高齢になっても安心感がある生活を送ることができる状態が理想です。

#### 障害者福祉

障害のある方や高齢者が、その人らしく暮らせる社会が実現されていることが理想です。

### ②必要な取組み

上に掲げた理想の状態を実現するために、次のような取組みを提案します。

#### 〈全体〉

- ハンディキャップのある人が普通に生活できるようにする（表に出てこない、福祉を必要としている人の支援、ひとり親や障害者の支援、誰でもアクセスできて人との関わりが持てる場をつくる）
- ノーマライゼーションの理念を伝える取り組み
- 体験を伴う福祉の講座（福祉施設等での体験学習など）
- 福祉を生活の一部として取り入れてもらう、認知度不足等で様々なサービスが有効活用されていない現状を改善する（今あるサービスの認知度向上、「介護サービスを受けるのが恥ずかしい」といったイメージの解消）
- 福祉サービスの質と量の向上
- 福祉の担い手の育成
- 相談支援体制の確立（必要な支援機関につなぐコンシェルジュを設置、市民側の「相談する力」の向上促進）
- ボランティアの充実（サービスを必要としている人と提供する人をつなぐ、地域の中でお助けボランティアをつくり、枝切り・草むしり・子守等を有償または無償で行う）
- 引きこもりの人の支援（高齢化する引きこもり者への対応、金銭的な援助や家庭で抱えず社会へつなぐ支援を）



- 1歩外に出たくなるような支援（市内循環バスの本数増加）
- 働き方の改革（個々人に応じた多様な働き方、就労支援、再雇用支援、一つの仕事を複数人が担う多能工の導入、企業に対する福祉・介護・子育て講座開催、賃金格差の是正、子どもが病気の際に休める制度、育児休暇の取得促進）
- スポーツ少年団など社会教育団体の充実
- 地域で高齢者が気軽に参加できる場を設ける（地域の安否確認システムの充実）
- インフラ整備（ユニバーサルデザイン、バリアフリー、多機能トイレなど）

#### 〈生活福祉〉

- ひとり親のシェアハウス
- 引きこもり支援相談センター等、行政の連携・チームづくり

#### 〈高齢者福祉〉

- 健康寿命の延伸を図る（ラジオ体操・ウォーキングなどスポーツしやすい環境整備）
- 自立支援（高齢者の自立を支えるサークルの充実、講座の設置、高齢者がオレンジカフェなどの運営者として関われる支援）
- 西口にも東口の「ことぶき荘」のような老人福祉センター施設を設ける

#### 〈障害者福祉〉

- 様々な障害に対して市民の方の理解を深める
- パラスポーツの普及 ➤ 障害のある方の話を聞く機会を設ける
- 空き家の活用（住まいの保障） ➤ 子どもたちへの啓発
- 就労支援（いっしょに働くことで身近な存在となる）

### ③市民と行政の役割分担

上に掲げた取組みを実行していくに当たり、私たちが進めること、行政に期待することについて、次のとおり提案します。

#### 〈私たちが進めること〉

「できる人ができる時にお声がけをする」、「障害者や高齢者の生活を見守る」、「自分が利用した福祉サービスをSNS等で発信する」、近隣の人の気配りなど、「誰もが住みやすいまちの実現」に向かって、身近なところから積極的に交流・活動することが必要です。

#### 〈行政に期待すること〉

歩道や施設のバリアフリーの整備などハード面の整備と、働き方改革や障害者や高齢者の相談支援、交流機会の充実などソフト面の整備のほか、福祉サービスへの認知向上など広報活動を通じた、情報発信が求められます。また、男性の育児休業取得推進など、市職員が率先して働き方改革に取組みアピールすることが求められます。

## 【都市基盤・公共交通・環境・緑地・公園】

### ①理想の状態 SDGsの実現に向けて行政・市民一体になった都市づくり

この目標を達成するために、「上水道・下水道、河川」「土地利用・住環境」「交通・道路」「環境保全、廃棄物・リサイクル、生活環境、みどり」の4つのカテゴリーに分類しました。

#### 上水道・下水道、河川

災害時にも安心・安全な水を継続的に供給するなどライフラインが確保され、持続可能な上下水道経営が適切に運営されている事が理想です。また、浸水被害の低減のため、河川が整備され、雨水タンクが設置されている状態が理想です

#### 土地利用・住環境

周辺環境と調和のとれた土地利用を図り、緑地が適正に保全されることで、住みたいと思うまちと感じられる状態が理想です。

#### 交通・道路

都市計画道路や生活道路などが整備され、自転車道の整備など自転車利用環境が整っており、各拠点へのアクセスの利便性が高い状態が理想です。

#### 環境保全、廃棄物・リサイクル、生活環境、みどり

オープンスペースなどの緑地が確保されているほか、環境ビジネスを推進し、効率的、効果的なリサイクルが推進できている状況が理想です。

### ②必要な取組み

上に掲げた理想の状態を実現するために、次のような取組みを提案します。

#### 〈全体〉

- SDGs 未来都市への立候補
- SDGs の取組みに目配り
- 市民へのSDGsの周知
- 行政が指導者育成
- 「制限があるからできない」をやめる
- 市民参加の制度づくり（若者を重視）

#### 〈上水道・下水道、河川〉

##### 上下水道

- 設備の計画的な保全・改修（古い水道管の取り換え、下水路の整備と改修事業の推進、配水場、配水管の更新、長寿命化）
- 都市下水道の改修事業の推進

- 整備においては優先順位を付ける。適切な料金体系
- 効率的な事業運営（水道事業の広域化、持続可能な水道サービスを運営するため計画的かつ効率的な事業運営にする）
- 水質基準に適合した水の供給の継続                      ➤ 災害時の強化
- 給水車の配備、貯水槽の設置                              ➤ 浄水場間の連絡管の整備

## 河川

- 浸水被害の軽減（雨水貯留施設の整備促進）
- 総合的な計画を策定する                      ➤ 河川の活水機能を高め河川等の整備を進める
- 鴨川、芝川の水質管理と増水対策
- 親水公園などの整備（水と緑を多くする、美化に努める）
- 行政・市民一体となった国・県への整備促進の要望

## 〈土地利用、住環境〉

### 土地利用

- 区画整理を進める（規定にとらわれない整備）                      ➤ 土地利用制限の緩和
- 農地や自然環境を保全しつつ、秩序ある土地利用を図る
- 企業誘致を行う場合、周辺環境への配慮（特に公害等）を徹底するように
- 遊休農地の活用→作る・育てる→食べる・販売する（イベント化する）
- 必ず起きる大災害に対応して、余剰地の確保が必須
- 空き地など活用によるオープンスペースの確保
- 地域コミュニケーションの活性化（連絡体制の確立）
- 街づくり協議会の活用推進

### 住環境

- 狭小住宅やワンルームマンションの規制（狭小土地の建築物規制）
- 余剰施設等を活用し、コミュニティの場を整備する                      ➤ 小規模開発の抑制
- 二世帯三世帯の同居の推進（二世帯住宅の建築奨励等の強化、若い世代が住みたくなるよう地域内のよいところアピール）
- 多世代間交流可能な高齢住宅用集合住宅の整備
- 子育て・仕事・地域参加などのメリット
- 地域住民主体の取組みの強化                      ➤ 住民参加しやすい体制、仕組みづくり
- 自治会の運営（高齢化でやり手がいなくなる）制度を作る(ex.さいたま市)
- 地区計画制度の推進

## 〈交通、道路〉

### 交通

- 公共交通の再配備（見直し）：ぐるっとくん増やす、料金を上げる、バスではなくても

大型車の利用などぐるっとくんの効果的運用、交通ネットワークの充実（鉄道・公共交通）

- 自転車利用の推進
- 移動手段、公共交通のニーズを調査
- 的確な維持管理 長寿命化

#### 道路

- 国道・県道の整備促進要望（市内 17 号の渋滞対策、上尾 BP の整備促進）
- 上尾道路沿道の適切な土地利用の推進
- 都市計画道路の見直し
- 道路の整備（狭あい道路、都市計画道路）
- 道路の計画的な保全・改修
- 幹線道路の地下化の検討
- 生活道路の通過目的の自動車進入規制を図る
- 自転車利用環境の整備（駐輪場、自転車レーン整備による安全性の確保）
- 街路樹の適正管理（計画策定）
- 渋滞緩和の対策（駅前ロータリーの拡張整備）

### 〈環境保全、廃棄物・リサイクル、生活環境、みどり〉

#### 緑・公園

- 緑豊かな公園やオープンスペースの維持・整備
- 屋上緑化や壁面緑化の促進
- 緑化は市民義務として住居周辺の緑化の推進
- 農業の担い手確保
- 生産緑地の保全（オープンスペース確保）
- SDGs を意識した、持続可能な農地の保全・創出

#### 環境

- 環境配慮意識の啓発及び活動（住民、あらゆる層に環境教育を計画的に行う、意識向上への取組み（イベント開催、教育へ取り入れるなど）、子ども（小中高）環境学習の体験授業の実施）
- 地球温暖化対策の促進
- 地域の担い手となる市民の育成
- 学校教育と環境保全活動の連携
- 「クリーン上尾運動」の拡充
- 節水を心がけ、汚水を流さない
- 地域住民ボランティアによる環境活動の実施

#### 廃棄物・リサイクル

- ゴミの減量・分別、再資源化の促進
- リサイクルできない物の生産禁止
- リサイクルセンターを各自治体ごとに作って回収する
- エコバックポイント等上尾でも取り組んでみる
- 食品ロスをなくす（事業者、家庭一体となった取組み）

### ③市民と行政の役割分担

上に掲げた取組みを実行していくに当たり、私たちが進めること、行政に期待することについて、次のとおり提案します。

#### 〈私たちが進めること〉

SDGs の目標の理解に努めるとともに、ゴミの減量・分別、食品ロス削減に取り組むほか、若者を中心とした次世代のリーダー育成や地域の環境活動への参加、**市民発意の条例制定**など積極的な市民参加が**必要です**。

#### 〈行政に期待すること〉

ハード面では、災害時にも対応できる**上下水道整備**や**安心・安全な道路や河川整備**など、災害に負けないまちづくりが求められているとともに、利便性のよい公共交通や緑や水辺環境の整備など良好な住環境の整備が求められます。**また、適切な維持管理として計画的な修繕や改修（長寿命化）のほか、ソフト面では、住民がまちづくりに参加しやすい体制・仕組みなど市民参加の制度づくりが求められます。**

## 【子育て】

- ①理想の状態 「安全・安心に子育てできる」「孤立させない」  
「子どもたちの希望や自己肯定感が生まれる」環境がある

この目標を達成するために、「子育て」「青少年」の2つのカテゴリーに分類しました。

### 子育て

安全・安心に子育てできる環境が充実している状態が理想です。仕事と子育ての両立や母親が孤立しない環境を作るためには、周りの理解が必要となり、地域で子どもを育てる意識が大切です。

### 青少年

多様な育ちを認めることや、地域との関わり合いを持ちながら、安心して集える場を創造すること、地域の見守り活動等の拡充により、子どもたちが自由に学べる環境が整っている状態が理想です。

このことから地域の人と関わり合いを持てる場所や機会を創出することで、安心して集える場の創造につながると考えます。

## ②必要な取り組み

上に掲げた理想の状態を実現するために、次のような取り組みを提案します。

### 〈子育て〉

#### 子育てと仕事の両立

- 柔軟な労働時間
- 子育てについて有益な取り組みをしている企業へのフォロー（補助・周知）
- 個人に対してプッシュしてお知らせできる仕組み（個別のお知らせ通知）

#### 孤立しない

- 積極的な情報提供※個別적으로お知らせ（妊婦さん etc.）
- 子育ての準備ができる場所づくり（つながりの場）
- 社会が切れ目なく支援できる仕組み
- 子育て世代に向けた相談窓口の設置
- 当事者に寄り添った相談体制の充実

#### 安心して子育てできる

- 父親が子育てを学ぶための場の提供
- 失敗経験を共有できる環境
- 保育時間の拡充（必要量を選択できる）

- 貧困対策の取組み PR
- 地域の見守り体制の構築

施設が充実している

- 子育て施設の充実（補助金の活用）
- 働き手の確保（学童 etc.）
- 障害の有無にかかわらず一緒に過ごせる環境づくり
- 子育てに必要な財源を確保する
- 人材育成への投資

### 〈青少年〉

安心して子育てできる

- 居場所の提供・活用（児童館 etc.）たまり場
- 十分な学習の機会が持てる取組み（取り組んでいる団体のフォロー etc.）
- 学校の ICT 化、学習の場所提供
- 多様性に対する行政の正しい理解（職員研修 etc.）
- 行政関係者がニーズを的確に把握する（研修等）
- ボランティアマネジメントに対する支援を行政が行う

地域の人間関係

- 子育て世代と中・高生の交流の場づくり
- 子どもが集まれる場所（自由度の高い）
- 団体への柔軟な対応（場所の提供 etc.）

## ③市民と行政の役割分担

上に掲げた取組みを実行していくに当たり、私たちが進めること、行政に期待することについて、次のとおり提案します。

### 〈私たちが進めること〉

子育ての経験を生かしたボランティア活動など市民団体への参加や子育て失敗談、子育て世代へのアドバイス等の情報を共有するとともに、地域の青少年の見守り活動などへの参加が必要です。

### 〈行政に期待すること〉

子育て世代のニーズを把握するとともに、子育て施設の維持・再整備や働き手の確保のための補助金の支給などが求められます。また、地域の居場所づくりや多世代交流の場の創出など、子育て・青少年育成のための環境づくりが求められます。



## 【文化・スポーツ】

### ①理想の状態

文化・芸術・スポーツ・レクリエーションに  
世代を問わず触れることができる

この目標を達成するために、「文化・芸術、文化財」「生涯学習」「スポーツ・レクリエーション」の3つのカテゴリーに分類しました。

#### 文化・芸術、文化財

上尾の歴史、文化・芸術に関する教育を「上尾学」として推進するなど、市民が子どもの頃から上尾について理解している状態が理想です。

#### 生涯学習

市民の活動場所が確保されるとともに利用しやすい環境が整備されており、施設の利便性が向上している状態が理想です。

#### スポーツ・レクリエーション

気軽に運動に親しめる環境が整い、健康が促進されており、また、「スポーツのまち」として若者に人気のスポーツ施設が整備され、広く情報発信をすることで若者の人口増に繋がっている状態が理想です。

### ②必要な取組み

上に掲げた理想の状態を実現するために、次のような取組みを提案します。

#### 〈全体〉

- 文化、スポーツに関する広報活動
- 文化、スポーツ全般のPR、ブランディングを専門にする部署
- 上尾PRコーナーの設置（文化、スポーツ）

#### 〈文化・芸術、文化財〉

##### 文化財の展示・施設

- 文化財展示コーナー
- 民俗文化財の展示
- 上尾市郷土博物館の新設（歴史・文化・伝統・物産品等広く市民に学ばせる）
- 市の歴史、自然、文化がわかる施設（勉強できる施設）
- 空き家の有効利用
- 公共施設の利用料金の格安化
- 公民館及び周辺の小学校の空き教室を活用したジャンル別の展示

##### 街の中で触れる芸術の機会（催し）

- 芸術祭の開催（映像・音楽・絵画等を町の中心で一か所開催がベスト）
- 芸術展、美術展の拡大
- ぐるっとくをミニ美術館にする
- 街の中でふれあうことのできる文化・芸術イベント



## 〈生涯学習〉

### 機会の充実

- 各（自治区の）地区公民館の活用
- 施設が利用しやすい環境・利用促進（手続きの簡素化、利用者データの活用）
- 今あるインフラ（施設）の有効な活用・人材の活性化
- 上尾市の歴史・自然・民族を基とした、ふるさと学の学習
- 「地元の日」の開催（文化財・歴史に関する事業を実施する）
- 親子、多世代で楽しめる文化・芸術・スポーツのイベントの実施
- 子どもから高齢者、障害のある人、外国人など色々な人が参加できる行事の開催（共生・協働の分野にもかかわる内容）
- 生涯学習、スポーツレクを通じて、地域のコミュニケーションを強める

## 〈スポーツ・レクリエーション〉

### スポーツのまちあげお

- 新しいスポーツのできる施設整備（ボルダリング、ハーフパイプなど）
- 新たな施設をつくり大会を開催（ボルダリング、スケートボード、BMX など 若い人に注目度が高い新しいスポーツを取り入れた事業）
- 上尾シティハーフマラソンに車いす部門や目の不自由な人のクラスを新設する
- ウォーキング用の道路の整備（大小の公園を結ぶ、みどりの通り道）
- スポーツ協会の活性化
- プロスポーツチームとの連携      ➤ 県の施設との連携、有効利用
- 魅力のある（楽しい）スポーツレクや生涯学習を企画して、健康寿命を延ばす

## ③市民と行政の役割分担

上に掲げた取組みを実行していくに当たり、私たちが進めること、行政に期待することについて、次のとおり提案します。

### 〈私たちが進めること〉

歴史・文化・芸術を子ども達に伝える機会の充実、文化祭・各サークル団体へ参画など、世代を超えた交流を通して、上尾について学習する機会を増やすほか、幅広い世代の市民のスポーツ・レクリエーション企画、イベントの参加を通じた地域の繋がりの強化が必要です。

### 〈行政に期待すること〉

市民が気軽に文化・芸術、スポーツに取り組めるよう、総合文化センターの整備や文化・スポーツイベントの実施など市民参加の拡充に努めるとともに、「スポーツのまちあげお」を市外にアピールするなど、広報活動の充実が求められます。

## 【教育】

- ①理想の状態      質が高く、柔軟性のある教育環境  
充実した基礎学力をもとに、発想が豊かな子どもが育つ

この目標を達成するために、「教育環境」「教育活動」の2つのカテゴリーに分類しました。

### 教育環境

誰もが学びやすい環境を整備し、教育の質の向上につながっている状態が理想です。

### 教育活動

学ぶことの大切さを理解した上で、自主的に子どもがいきいき学べるような自由な雰囲気教育活動など、夢や希望を育む教育が実現された状態が理想です。

## ②必要な取組み

上に掲げた理想の状態を実現するために、次のような取組みを提案します。

### 〈教育環境〉

#### 地域との連携

- 地域住民による授業、行事、ボランティアへの参加
- 学校と地域の情報共有
- 保護者や地域住民が気軽に相談できる窓口の設置

#### 誰もが学びやすい

- 日本語を母国語としない児童・生徒が安心して学べる環境の整備
- 給食費の無料化                      ➤ 補講、補習の場の提供（学習支援の拡充）
- 補助金等や無償の塾などを活用し、所得格差による教育格差の減少を図る
- 学校教育における、IT 図書館・滞在型 Wi-Fi 環境の整備
- オンライン授業の実施体制の整備
- 所得格差による教育格差をなくすため、ネット端末がない子どもへの支援

#### 教員の働く環境

- 教員の働き方に対する意識改革（先生が教えることに専念できる環境整備、時間外勤務の管理、教員の勤務状況の実態把握）
- ICT を利用し、生徒間、教員間ともに県外の学校との交流を充実させる
- 教員の負担減（AI 等の活用や事務の簡略化）
- 優秀な人材を確保するため、教育実習生に積極的な PR を行う

## 教育の質

- 教員の増員と、教員研修の充実による質の向上
- 教員の構成バランスを整える
- 現場ですぐ応用できるような研修内容への見直し
- 先生を二人制にする（チームティーチング）
- 事務員・その他のスタッフ（支援員など）の数を増やす

## 安心

- 学校教育相談の充実（相談員の常駐）
- 全地域で放課後教室を開催
- 小・中学校の数を適正化（統廃合）

## 〈教育活動〉

### 多様性

- 少人数学級を作る
- キャリア教育の充実（将来を考える授業）
- 子どもたちが志を持って学べるように、将来について考えることができる授業を実施

### 自分らしく学ぶ

- 自分らしい学び方を通した「人」の育成
- プレゼンテーション力を養えるよう、発言する場を増やす

### 学力

- 基礎学力の充実
- 実際に使える英語教育の充実
- 習熟度別クラスの充実（適切な環境での競争と自身の成長の把握）

### 世代間交流

- 異学年との交流を図る

### その他

- 児童・生徒を対象とした職業体験の充実

### ③市民と行政の役割分担

上に掲げた取組みを実行していくに当たり、私たちが進めること、行政に期待することについて、次のとおり提案します。

#### 〈私たちが進めること〉

子どもがいきいき学べる環境づくりのために、地域の見守り活動への参加や世代を超えて一緒に学ぶことで、学びの楽しさを伝えるなど、子どもとの交流を通じた教育活動への参加が必要です。

#### 〈行政に期待すること〉

教員の働く環境改善や多様な学び方の推進のために、A I ・ I C T環境の整備のほか、少人数学級の実現など、教員の負担軽減に向けた取組みのほか、世代間交流イベントの企画やキャリア教育を通じた職業体験など自分らしく学べる教育活動の実現が求められます。

## 【産業】

### ①理想の状態

### 誰もが持続可能な働き方を実現

「産業」の理想の状態としては、「収入が安定していること」、「後継者がいること」、「働ける場があること」等、誰もが持続可能な働き方を実現できていることが目標として挙げられます。この目標を達成するために、「農業」「商業」「工業」「観光」「勤労者・就労支援」の5つのカテゴリーに分類しました。

#### 農業

安定した収入の確保や後継者不足が解消された状態が理想です。

#### 商業

空き店舗の活用や、上尾の独自性のある商店街運営など差別化が図られている状態が理想です。

#### 工業

各事業者が操業しやすい環境が整っている状態が理想です。

#### 観光

歴史や自然など上尾の地域資源の再発見により新たな観光資源を創出するなど、上尾独自の観光スタイルを確立した状態が理想です。

#### 勤労者・就労支援

高齢者や障害者など誰もが働きやすい環境づくりや健康経営が推進された状態が理想です。

### ②必要な取組み

上に掲げた理想の状態を実現するために、次のような取組みを提案します。

#### 〈全体〉

- 上尾道路沿いの活用
- 手広くやるのではなく、何かひとつの産業（項目）に絞って注力
- 上尾に住んでいる有名人の人脈活用
- 創業支援
- 知識習得、意見・情報交換ができる機会の充実

#### 〈農業〉

##### 後継者

- 農業法人設立による大規模農業
- 大規模な企業を誘致（従業員として雇用）

- 外国人農業実習生の活用推進                      ➤ 高齢者の活用推進
- 農業の機械化を促進（法人化、農機シェアリング）

#### 企業

- 道の駅（直売所）拡充（上尾道路）                      ➤ 農家の意識改革（企業努力）
- 農産物の品質の維持・向上（監視員）                      ➤ 新たな商品開発

#### 市民意識

- 地産地消の促進（市民の意識変化のための取組み）
  - ・⇒直売所の拡充、道の駅の新設（上尾道路）
- 新鮮な農産物の利点を学べる機会の創出
- 食料自給率向上のための教育
- 職業としての農業のイメージアップ、農業の魅力についての情報発信

#### 〈商業〉

- 情報発信の強化
- 商店街の再整備（駅周辺の再開発、西口駐車場の活用）
- 特徴のある商店街づくり
  - ・食のテーマパーク化（集約した飲食店街）
  - ・ミニ竹下通りのような商業通りを整備
  - ・日中、子育て世代が集えるカフェなどを充実
- スポーツ施設来場者にお金を落としてもらえるような仕組みづくり
- オリジナルグルメなど、上尾らしい商品の企画・提案

#### 〈工業〉

##### 特区

- 工業に特化した区域を作り、市内の町工場の経営上の利便性の向上を図る
- 新しい特色ある工業団地を整備（情報化社会に対応など）

##### 行政のサポート

- 利用しやすい補助金を整備                      ➤ 新商品のPR・販売支援
- クラウドファンディング（やり方の指導）                      ➤ ベンチャーキャピタルの活用支援

#### 〈観光〉

- 新たな目玉をつくる（上尾七福神、畑アート（耕作放棄地の活用）など）
- 新たな観光スポットと商店街などのコラボレーション（花畑＋飲食店の営業など）
- 観光関係の人材に対する支援

### 〈勤労者・就労支援〉

- 大手の事業所に高齢者を雇う条件等を付けて進出させる

### 働く人への支援

- 健康経営の推進
- 自治体として勤労者に対するフォローをしっかりと行う
- 自治体と商工会がタイアップして勤労者支援に取り組む
- 高齢者や障害者が働きやすい（雇ってもらえやすい）環境づくり

## ③市民と行政の役割分担

上に掲げた取組みを実行していくに当たり、私たちが進めること、行政に期待することについて、次のとおり提案します。

### 〈私たちが進めること〉

元気で働ける状態を保つために、予防医学へ取り組むこととともに、農作物の提供による地産地消への貢献など、産業を通じた地域参加が必要です。また、上尾の魅力再発見や、若者への情報発信、新しい担い手の育成が必要です。

### 〈行政に期待すること〉

農業・商業・工業を維持・発展するために利用しやすい補助金制度の仕組みづくりが望まれます。また、産業に特化した地域整備や地域資源を市外への情報発信などハード・ソフト面での行政サポートが求められます。

## 5. 参考資料

### ★ あげお未来創造市民会議委員名簿

※50音順 敬称略

No.	区分	団体名等	氏名
1	第4条3項委員	一般公募選出	飯塚 純
2	第4条1項委員	特定非営利活動法人マミング埼玉	市倉 育江
3	第4条1項委員	上尾市PTA連合会	伊原 広茂
4	第4条1項委員	上尾市花卉園芸研究会	大木 晴夫
5	第4条1項委員	上尾市防災士協議会	大澤 サユリ
6	第4条3項委員	一般公募選出	大塚 常司
7	第4条1項委員	上尾市街づくり推進会議	岡部 千里
8	第4条1項委員	街づくり協議会	小川 和男
9	第4条1項委員	上尾市環境推進協議会	小川 早枝子
10	第4条1項委員	上尾ものづくり協同組合	河原塚 透
11	第4条2項委員	株式会社中広（あげいる）	木村 功一 ※1
12	第4条1項委員	こども食堂「とまと」	桐原 陽子
13	第4条1項委員	上尾市人権擁護委員会	小島 勝
14	第4条3項委員	一般公募選出	小牟田 健治
15	第4条1項委員	上尾市交通安全母の会連合会	鈴木 靖代
16	第4条1項委員	上尾市国際交流協会	関本 正弘
17	第4条1項委員	消費者被害防止サポーターの会	高橋 雅之
18	第4条1項委員	社会福祉法人あげお福祉会	竹村 絵里
19	第4条1項委員	上尾市いきいきクラブ連合会	刀根 正克
20	第4条3項委員	一般公募選出	中澤 正俊
21	第4条1項委員	上尾市文化団体連合会	野田 紘良 ※1 横堀 鶴雄 ※2
22	第4条2項委員	元小学校教諭	能登 貢
23	第4条1項委員	特定非営利活動法人あげお学童クラブの会	萩原 和也
24	第4条1項委員	上尾市食生活改善推進員協議会	本城 文夫
25	第4条3項委員	一般公募選出	増田 澄雄
26	第4条1項委員	女性フォーラムあげお	的場 保子
27	第4条2項委員	上尾地区ビジネスキャリア・エンジョイサークル	宮田 敬生
28	第4条1項委員	上尾市スポーツ協会	矢島 通夫
29	第4条1項委員	上尾市公民館運営審議会	山尾 三枝子
30	第4条1項委員	NPO法人 彩の子ネットワーク	山口 直

※1 第6回市民会議まで委員

※2 第7回市民会議から委員



# ★あげお未来創造市民会議委員名簿（テーマ別グループ）

## 【テーマ別グループ】

① 第1回～5回	② 第6回～8回 (協議テーマ1)	③ 第9回～11回 (協議テーマ2)
A 安心・安全・人権	A 健康・医療	F 都市基盤・公共交通・ 環境・緑地・公園
B 健康・福祉・生涯学習・ スポーツ	B 協働・コミュニティ	G 子育て
C 地域づくり・産業・環境	C 行財政運営	H 文化・スポーツ
D 子育て・教育	D 防災・防犯・交通安全	I 教育
	E 福祉	J 産業

## 【テーマ別グループ委員名簿】

No.	氏名	テーマ別グループ			No.	氏名	テーマ別グループ		
		①	②	③			①	②	③
1	飯塚 純	D	C	G	17	高橋 雅之	A	D	F
2	市倉 育江	D	D	J	18	竹村 絵里	B	E	G
3	伊原 広茂	D	D	I	19	刀根 正克	B	D	H
4	大木 晴夫	C	A	J	20	中澤 正俊	C	C	F
5	大澤 サユリ	A	D	F	21	野田 紘良	B	—	—
6	大塚 常司	D	D	G	22	能登 貢	D	A	I
7	岡部 千里	C	A	F	23	萩原 和也	D	C	G
8	小川 和男	C	C	F	24	本城 文夫	B	B	H
9	小川 早枝子	C	C	F	25	増田 澄雄	B	A	F
10	河原塚 透	C	C	J	26	的場 保子	A	B	I
11	木村 功一	A	—	—	27	宮田 敬生	C	C	J
12	桐原 陽子	D	E	G	28	矢島 通夫	B	E	H
13	小島 勝	A	B	H	29	山尾 三枝子	B	B	I
14	小牟田 健治	B	A	J	30	山口 直	D	B	G
15	鈴木 靖代	A	E	H	31	横堀 鶴雄	—	E	H
16	関本 正弘	A	B	I					

★ あげお未来創造市民会議要綱

〔 平成31年 4月 2日 〕  
市長決裁

（設置）

第1条 第6次上尾市総合計画（以下「総合計画」という。）の策定に関し、市民の意見、要望等を取り入れ、それらを総合計画に反映させるため、あげお未来創造市民会議委員（以下「委員」という。）を置く。

（職務）

第2条 委員は、総合計画を構成する基本構想及び基本計画について、総合的な観点から意見を述べ、提案を行うほか、総合計画の策定に関し必要と認める職務を行うものとする。

（定数）

第3条 委員の定数は、30人以内とする。

（委嘱）

第4条 委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

- （1） 市内の公共的団体に属する者で、当該公共的団体の推薦するもの
- （2） 市政の各分野において豊富な活動経験を有する者
- （3） 市政について関心を有する者で、公募により選考されたもの

（その他）

第5条 この要綱に定めるもののほか、委員に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

（施行期日）

1 この要綱は、決裁の日から施行する。

（この要綱の失効）

2 この要綱は、令和3年3月31日限り、その効力を失う。

★ あげお未来創造市民会議の取組み状況について

STEP	開催日時	ワークショップの内容
イントロダクション	第1回 令和元年 5月25日(土) 9時～12時	○市民会議の概要説明等 ■グループ討議 「第6次上尾市総合計画を策定するうえでの前提条件の考察」
STEP 1	第2回 6月15日(土) 9時～12時	■グループ討議 「シナリオプランニング①～私たちが望む上尾の姿～」
	第3回 7月6日(土) 9時～11時	■グループ討議 「シナリオプランニング②～望ましい上尾の姿の実現のために～」
STEP 2	第4回 8月9日(金) 9時半～11時半	■グループ討議 「将来都市像・基本理念の検討」
	第5回 9月27日(金) 9時半～11時半	■グループ討議 「まちづくりの基本方向の検討」
STEP 3	第6回 11月1日(金) 9時半～11時半	○施策イメージの共有等 ■グループ討議 「施策に対する意見検討①」(協議分野1の理想の状態)
	第7回 11月29日(金) 9時半～12時	■グループ討議 「施策に対する意見検討②」(協議分野1の必要な取組)
	第8回 12月20日(金) 9時半～12時	■グループ討議 「施策に対する意見検討③」(協議分野1の市民／行政の役割)
	第9回 令和2年 1月17日(金) 9時半～12時	■グループ討議 「施策に対する意見検討④」(協議分野2の理想の状態)
	第10回 2月7日(金) 9時半～12時	■グループ討議 「施策に対する意見検討⑤」(協議分野2の必要な取組)
	第11回 3月 書面開催	■グループ討議 「施策に対する意見検討⑥」(協議分野2の市民／行政の役割)、「将来都市像・基本理念の検討」
	第12回・第13回 5月 書面開催	■グループ討議 「提言書の検討①②」(提言書の内容確認①②)
	第14回 7月13日(月)	■提言書提出に向けた準備 「提言書の発表に向けた準備」
	第15回 8月5日(水)	■提言書提出 「提言書の発表・提出」

第6次上尾市総合計画の策定に向けた市民会議提言書（案）

あげお未来創造市民会議

2020年7月